

平成24年度 第1回市民活動サポートセンター運営委員会 会議概要

平成24年5月24日(木) 18:30~20:00
横須賀市立市民活動サポートセンター

出席委員 9名…根本、柏崎、酒井、澤田、早川、古田、前川、吉田、渡辺
事務局 3名…市民生活課 松尾、堀井、江南
指定管理者 2名…NPO法人YMC Aコミュニティサポート 高橋、大島理
傍聴者 0名

1 報告事項

[意見概要]

1-(1) 利用状況・利用者の声について

指定管理者及び事務局から、資料1に沿って報告した。

(指定管理者)

平成23年度の利用者数は43,263人で、過去で一番多い利用者数になった。ただし、16年度、19年度、そして20年度と前年度よりさがっている年もある。しかし21年度には持ち直し、この4年間は右上がりできている。数字上で見る限り、のたろんフェアの参加者数を見るとわかるが、20年度の人数が大幅に増えているように、平成20年度の10周年記念ののたろんフェアで、停滞気味であった利用者数を押し上げたのではないかと。

登録団体数については、11年度の152団体から段々と増えて、20年度で640となった。21年度で437だったので下がっているが、これは以前にも説明したように、NPO法人は途中でなくなったり、他の場所を見つけて動いたりと様々な事情があるので、今後サポートセンターを継続して使うかどうか全団体に確認し、一度クリーニングをしているためである。23年度は501である。

(市民生活課)

久里浜と追浜のサポートセンターについては、平成23年度久里浜市民活動サポートセンターの利用者数は2,616名、追浜市民活動サポートセンターの利用者数は2,400名である。ここ数年間の利用状況をみると、段々と減っている。今までの運営委員会でも話し合いを行っていたが、改善の兆しが見えず減り続けている状況なので、事務局の方でも改めて考えていきたい。また、平成22年度の運営委員会でも久里浜と追浜の市民活動サポートセンターの盛りたて方を議題として扱っていただいた際に、近隣の町内会等にサポートセンターの紹介の手紙を配布させていただいたが、数字としては具体的に現れなかったという状況であった。

(指定管理者)

ロッカー・レターケースについては、ロッカーは満杯で、レターケースのみ若干の余裕がある。

情報化支援におけるホームページアップ支援では、ゼロ件が続いているが、今後ホームページの支援についてどのように進めていくかを事業計画で改めて対策を説明する。

パソコン講座は指定管理業務として受けていたが、パソコンのリース切れ及び、前回ののたろんフェアの際の会場整備に伴い、一旦終了した。ただし、今後、多目的ルームとしてパソコン講座を含めた色々な形での支援ができるような部屋として活用していきたい。現在、自主事業としてのフリープラン講座に関しては、すでに再開している。

活動紹介コーナー利用状況に関しては、ほぼ埋まっているが、空いているところは基本的にサポートセンターの広報物関係を掲示して展開している。時々、ひと月空いてしまうようなこともあり、そのような場合は声をかけて埋めるようにしているが、声かけ

等行わなくてもほとんどが埋まる状況である。

利用者の声において、レイアウト変更に関しては概ね良い印象をもってもらっている。ただし、パソコンに関しては老朽化しているため、起動も遅く、メンテナンス等を行ってもこれ以上は良くならないため、今後新しくしていくことも前提に考えていかなければならない。市と相談し、検討課題にしたい。

1-(2)平成 24 年度事業計画

指定管理者から「YMCA コミュニティサポート 2011 年度事業報告」の資料に沿って、報告した。一部、参考として YMCA コミュニティサポートに関する事業活動の報告もあった。

①サポートセンター運営管理事業について

(指定管理者)

市民活動サポートセンターの施設について、昨年度の改定案をもとに、利用案内を改定した。そのため、現在は利用者からの声をまとめて検証している段階である。

NPO、ボランティア支援、育成活動に関してだが、7～8月の「夏のボランティア体験」では、昨年から新しい切り口として若者を取り込んでいこうという動きをしており、一定の成果をあげた。今後も昨年の動きを強めていきたい。

②NPO、ボランティア支援、育成活動について

サポートセンターのボランティア組織としては、4S クラブとぼびーぐみ、さぼさぼと3つあるが、4S クラブはシニアの方のサポートクラブを支援している団体で、ぼびーぐみは高校生・大学生くらいの若者たちのサポートセンターを支援するグループである。また、さぼさぼは、県立保健福祉大学の学生を中心にした支援組織（ボランティア登録している方々の集まり）である。こういった方々がサポートセンターを支援してくれているが、今年は特にぼびーぐみ（以前は何かやりたいヤングマンとして活動していた）が年間を通して市内の清掃活動や、らくがき消しを続けるという非常に有意義な活動を続け、少人数ながらこの地道な活動が、少しずつ人数を増やしつつあるという傾向が出てきた。

昨年初めて行った作業所とのコラボによる「こたろんフェア」についてだが、今年も行う予定である。

③のたろんフェア他について

のたろんフェアでは、6,000名以上の方々が集って大きな盛り上がりを見せた。「チャイルドファクトリー」など協力関係にある団体との共催、あるいは、応援という形でのイベントにも積極的に参加して、サポートセンターの認知度をあげることや、NPO ボランティアの活躍の場を創出していくということに積極的に関わってきた。

また、その他イベント等についても資料に沿って説明を行った。

指定管理者から「特定非営利活動法人 YMCA コミュニティサポート 2012 年度事業方針・事業計画（案）」の資料に沿って、報告した。

(指定管理者)

平成 24 年度の事業計画におけるサポートセンター運営管理事業について

①施設管理業務について

これは利用規定の改定とレイアウトの変更のことであり、概ね良い印象をもってもらっているためこのまま様子を見る。また、検証していく過程で変更すべきところがあれば変更していきたい。

②情報収集提供業務について

CMS 導入によりホームページの情報提供能力をアップするとあるが、たとえば、サポートセンターのホームページにあるイベントカレンダーにはサポートセンターのイベント

しか載せていないので、サポートセンターに登録している団体の様々なイベント等を載せることができるようにしたい。ただし、現在のサポートセンターのキャパシティではできないので、それを CMS を使って可能にしたいと考えている。しかし、そのシステムを作ること自体が難しく、サポートセンターだけでは困難なので、ネットワーク支援をしている NPO との連携を深めて、システム作りを委託し、協働したいという声かけを現在進めている状況である。必要な費用や時間はわからないが、サポートセンターの発信力をあげていくためには必要なもので、できるだけ年度内には目途をつけたい。

各団体がホームページを持っていて、サポートセンターのホームページにリンクさせることが一番望ましいのだが、ホームページを持っている団体はさほど多くない。また、ある程度以上の年齢の方が運営している団体は、ホームページを作成すること自体が難しいということもあるので、ホームページ作成支援の実施として、ホームページ作成講座においてクラウドなどを使用し、ホームページをネット上にあげる支援をすることである。さらにそこからツイッターやブログなどにもアクセスできるように支援したい。今年度中には目途をつける計画で進めている。

③相談業務における NPO 法の改正について

7月にアドバイザー養成講座を他団体と行う予定である。NPO 法の改正に伴い、税制(主に寄付)が大きく動いているため、まずサポートセンターが学びの会を持って、秋以降には他の NPO 団体へアドバイスできるように計画している。

◇コーディネートの強化について

のたろんフェアやこたろんフェアでのコーディネートを強めていくと共に、セミナーで高評価を得た地域の「助け合い」組織との連携も続けていきたい。

地元企業の CSR との連携では、自主事業として現在進行中の朗読劇「ハッピーバースデー」において、協賛金を集めるという関係で、企業系の中間支援団体との話し合いの場を持ち始めている段階である。商工会議所や青年会議所、ロータリークラブ、ソロプチミスト等と色々な会合を持っている。

この発展として企業の社会貢献にタイアップしていくことができるような状況を作っていきたい。

若者の市民活動参加を促すこととして、県立保健福祉大学や関東学院大学との連携を強めると共に、横須賀学院も今夏のボランティア体験に協力して下さるということで、ここからさらに広げていきたい。

県内など近隣の NPO 支援組織との連携を検討することに関しては、横須賀だけではどうしても希望どおりにならない部分もあるので、より広い広域の部分での NPO 間の連携ということで、横浜で活動している団体と連携し、よりサポートセンターの力が強まるようにしたい。

その他、YMCA としての自主事業についても説明を行った。

(委員)

無線 LAN が入ったら、サポートセンター内のどこでもインターネットに接続し、パソコンを操作する人が増えるのか。そうであれば、今まで以上に入ってくる方のチェックをしっかりと行わないと、サポートセンターに関係のない方がファミレスのように来て、インターネットをやっていくということになるのではないかと。そういうことが起きないように注意してほしい。

(指定管理者)

無線 LAN の使用については、現在のところ市と詳しくは検討していない。サポートセンター内においても多目的ルームとそれ以外の部屋でどうやって切り分けるのか、業者と相談して組み立てたい。

(市民生活課)

サポートセンター内全体で使用できる機器を購入している。イメージとしては、無線 LAN を誰でも使えるというのではなく、インターネットにつなぐ際には、その都度認証をするか、もしくは、サポートセンターの受付で暗証番号を配布する、そしてその暗証番号は日々変更していく、というワンステップおいた形で利用していただくということを想定し、設置していきたい。

(委員)

CSR について、ハッピーバースデーだけでなく、それ以外でも市民活動団体はたくさんあるので、それらとの CSR もつなげて強化していくのか。

(指定管理者)

今まで、青年会議所とはある程度付き合いがあったが、商工会議所やロータリークラブとはあまり付き合いがなかった。ところが今回のハッピーバースデーでは実行委員会に入ってもらい、かつ協賛金を集めるワーキンググループにも入ってもらった。前回のミーティングで会った時に、一緒にやっていくという形が出てきたので、これをひとつの契機として今後長く企業系の方々ともつながっていきたい。企業の社会貢献的な活動が今後大切な活動になっていくので、前回ののたろんフェアでは小さい CSR のコーナーをひとつ作り、パネルを貼っていただいたが、このようなことも含めて関係を強めていきたい。

(委員)

学生についてだが、横須賀学院とサポートセンターで何かを考えて行うのか、それとも横須賀学院の生徒に対して、「夏のボランティア体験に参加してください」というような案内をさらに強化するのか。サポートセンターの企画に参加してもらうのはとても良いことなのだが、夏のボランティア体験のボランティアを受け入れる側の団体としては、団体の行うものに来ないで、サポートセンターが行うものに参加しているというのは納得がいかないのでは。

(指定管理者)

夏の体験では、各団体が企画する色々な活動に参加していただく予定である。横須賀学院とは、ハッピーバースデーを通して、学院長が積極的に関わってくださっており、今年に限って学生に案内をしていただけることになっている。ここで感触を掴めれば来年以降はもう少し、たとえばタイアップして行うなどといった方向性も出てくる可能性がある。

2 審議事項

(1) 指定管理者から前回の運営委員会以降の新規登録団体の説明があり、新規 7 団体中 4 団体を公益団体とすることが承認された。

3 その他

(1) 夏の市民活動体験について

指定管理者から資料3に沿って、報告した。

ボランティアセンターとの連携については、今年は最初の段階ということで広報の部分でお互い協力していく。ボランティアセンターも例年、夏のボランティア体験を行っており、名前や対象も似ているのでコラボすることになった。ボランティアセンターは8団体の申込、サポートセンターは10団体の申込がある。参加団体の締切りは5月27日。

その他、日程や内容について説明があった。

(2) 平成24年度市民協働推進補助金・モデル事業選考結果について

市民生活課より資料4に沿って概要の説明を行った。

[意見概要]

意見交換会について

(市民生活課)

次回の運営委員会まで間があるので、6月27日(水)18時半から意見交換会を開催する。

以上